

1982年 9月 20日

拝啓

過去数ヶ月、禅堂の内部を流れる不穏な雰囲気は、どなたもお気付きのことと思います。独参室で栄道老師に誘惑されたという若い女性たちの老師に対する告訴事件 - 長期に渡り連続的に起こっているこの問題が原因していることは、お気付きの方も多とおもいます。最近の告訴では“村民の声”の通信員であり、ABCテレビジョン ネットワークの記者でもあるミセス ロビン ウェステインによるものです。しかしこれは昔、栄道老師がハワイに居た1960年代に始まり現在まで連続して起きている女性誘惑事件なのであります。過去16年、禅教団理事会の会員として、最近では理事長として私は栄道老師のため弁明を試み続け、醜聞を出来る限りおおい隠してきました。しかし今では、吐き気を催させる最近の非道なる振る舞い、さらに彼の恩師である宗淵老師に対する言語同断なる態度に、ついに私は理事長の席も理事会そのものからも引退いたしました。貴方は大菩薩禅堂、正法寺僧伽の一員としてここで起っている事実を把握されるべきだと思います。その理由により、私は過去数週間の間に書き纏めた手紙の複写をお送りいたします。

今こそ私達は怯むことなく、ありのままの醜い事実立ち向かうべき時だと思います。そうすることが、過去においては多くの人々によって無視されてきた事ながら、我々が守らなければならない禅仏教基本の教義なのです。今では我々の多くは、この恐ろしい実情を見て禅堂を去り他の所で坐禅をおこなっています。島野らが自らを大菩薩禅堂と正法寺から移転するまで、私は貴方がたに家で又は他の禅グループで坐禅を続けるようすすめます。

“栄道老師は婦女蹂躪者で、嘘つき”という公式弾劾があつてから、宗淵老師は日本へお帰りになりました。その後、私は数回にわたり宗淵老師と言葉を交しましたが、私達の最後の会話において彼は、“自分は栄道老師を憎んではない、彼を深く愛している。しかし私は彼の欺瞞を憎む”といわれ、栄道老師へ電報を送られましたが、それには“栄道の恥は宗淵の恥、大菩薩禅堂の恥は龍沢寺の恥であり、世界中すべての禅堂の恥である”と。

私の理事会宛の手紙には医師小倉ただお氏による栄道老師の症状診断が示されています。ドライ ラマの医師、ドクタードンデン氏が1981年の春、栄道老師を診断した結果、彼の病気は、“風”の要素が老師の体内で機能を失っているとのこと、正法寺においてドクタードンデン氏はチベット医学の学説を説明され、意識的か否かはわかりませんが、“風”の要素の乱れは患者の心の中の過度の欲望と自尊心に由来するとのこと、我々は皆、多分これは正しい診断に違いあるまいと思うのですが、事実、栄道老師は正法寺と大菩薩禅堂において仏道を汚し、世界中の禅堂の眼前で我々に恥をかかせたのです。

私は貴方がこの実情を慎重に、勇気をもって検討し、道義心にもとづいて義務を果たれることを信じています。

南無大菩薩 南無大菩薩 南無大菩薩

ジョージ ザウナス